

浜松市議会議員

田口 章 後援会  
だより

お気軽にどうぞ  
昼 053 - 447 - 3820  
夜 053 - 440 - 7100

平成 21 年 12 月 4 日

創ろう！元気な浜松

# 活かそう「バイクのふるさと」

## 「オートバイによるまちおこし(埼玉県小鹿野町)」から学ぶ

先日、「オートバイによるまちおこし」に取り組んでいる、埼玉県小鹿野(おがの)町を視察調査してきました。バイクシーズンではありませんが、今月号ではバイクのお話をさせていただければと思います。

### 「バイクのふるさと」でまちおこし

私たちの浜松。国内では唯一無二の「バイクのふるさと」です。

市では、毎年夏に「バイクのふるさと浜松」というイベントを開催していますが、まだまだ「バイクのふるさと」という財産を活かしきっているとは思えません。

南区には「スズキ歴史館」があり、天竜区には新たに本田宗一郎さん生誕地として「ものづくり伝承館」ができます。バイクメーカーも関連業種もたくさん立地しています。

過疎化が進む広大な中山間地を抱えていますが、オートバイで風を切って走れば、自然豊かな気持ちの良いエリアでもあります。こうした財産を活かして、天竜区の町と町をツーリングオアシス(休憩所)で結んだり、浜名湖畔の自然あふれる風景を楽しんだり、新たなまちおこしにつなげられないものでしょうか。(次ページに続く)



### 最近の市政トピックスから

## 「子ども育成条例」

浜松市は「こども第一主義」を掲げる鈴木康友市長のもと、地域力を結集して子どもたちを育てることをめざし、基本理念やそれぞれの役割を定めた「子ども育成条例」を、22年4月を目途に策定中です。

9-10月に条例案を公表し、市民のみなさんからのパブリックコメントを募集しましたが、なんと、これまでで2番めに多い340件ものご意見をいただきました。ちなみに1番多かったのは「次世代育成支援(前期)行動計画」の513件だそうで、子育てに関する市民の関心の高さがうかがえます。

パブリックコメントで多かったポイントは2つ。そのひとつの「子どもの役割」という条項については、意見を踏まえて削除するなど、修正する方向になりそうです。

もうひとつの大きなテーマが「子どもの権利」を盛り込むかどうか。これについて、市は「理念条例」と位置づけ、前文にうたうものの、条文としては盛り込まない方向です。

市民みんなが完全に納得できる条例をつくるのは難しいものですが、いずれにしても多くの市民が関心を持っている条例です。できるだけ多くの市民や親、関係者が「つくってよかった」、「この条例に基づいて子どもたちにより良い環境をつくっていこう」と思える条例制定にしなければ意味はないと思っています。私も所管する厚生保健委員会に属していますので、議会としてしっかり議論し、実のある条例にしたいと考えます。

## 小鹿野町の「オートバイによるまちおこし」事業



埼玉県秩父郡小鹿野町は、奥秩父にある人口約1万3千人の山あいの町。オートバイにゆかりがあるわけではありませんが、首都圏から100km圏内にあり、豊かな自然環境のもと、従来から多くのツーリングライダーが訪れる地域でした。

通過ルートにすぎなかった町が脚光を浴びるようになったのは、昨今のB級グルメの影響もあるのか、この町の食堂で出されていた「わらじカツ丼」でした。これがバイク雑誌やライダーの口コミで広がり、「わらじカツ丼を食べに行く」という目的地のひとつになったようです。

ここまでは、どこにでもあるお話ですが、そのような中、平成17年度に初当選した町長が、「オートバイライダーを温かく迎えたい。オートバイにとってやさしい町をつくりたい」と、まちおこし事業にオートバイを活用することにしました。

まず「おがのウェルカムライダーズ構想」として平成18年度から事業に着手。ライダーが「来やすく・居やすく・また来たい町」をめざし、ハード・ソフトの両面から取り組みをスタートしました。

オートバイに対しては、必ずしもすべての住民がウェルカムというわけではありません。当初、住民の中には「ウルサイ」「危ない」等の声もあったそうです。そこで初年度の18年度は主にソフト面に取り組みました。特に、交通安全の推進や青少年の健全育成活動を事業目的に、オートバイ愛好家組織や地域住民と連携し、理解を深めたとのことでした。なお、埼玉県は高校生の「3ナイ運動」を進めています。地元の小鹿野高校は通学距離の関係もあり免許取得OKとのこと。こうした事情も事業目的にマッチしたようです。

その後、ハード面では「オートバイ専用駐輪場」の整備を進め、続いて「ロゴマーク」の活用、「ライダーズマップ」の作成などのソフト事業の充実を図るなど、19-20年度に基盤整備を進めてきました。

そして平成21年度、官民共同で「ウェルカムライダーズ実行委員会」を設立する中、5月に「バイクの森おがの」をオープン、本格的にPRを進め、現在に至っています。



【オートバイ専用駐輪場】入口にはロゴ入り標識。もちろん屋根付で、ヘルメットなど小物を収納するロッカーもあります。



【協賛店】写真は私が昼食を食べたお店です。もちろん「わらじカツ丼」をいただきました。協賛店を示すロゴマーク付看板には「Welcome Riders in Ogano!」の文字が。

まちなかには事業に協賛する商店が多数あり、お店によってはライダーへの特典を付けているところもあります。

この他にも、小鹿野町ではテーマソングCDやさまざまなグッズを販売するなど、ソフト事業でのまちおこしを進めています。

地域の潜在能力を“つなげる”ことが、活性化のカギのひとつです。

ところでこの事業、ある民間人の協力なしには、推進できなかったのではないかと思います。

その方は鶴飼清志さん。元ホンダの二輪デザイナーで、この事業にアドバイザーとして参画し、ソフト企画のほか、「バイクの森おがの」の運営にも尽力されています。

訪問した当日、たまたまお会いすることができ、さまざまな裏話もうかがうことができました。



【バイクの森おがの】立派な施設だと思いませんか？写真のバイクは鶴飼さんのもの

「バイクの森おがの」は、ヨーロッパの名車を中心に、150 台ほどのオートバイを展示している「モーターサイクル・ミュージアム」です。

自然の中に立つすばらしい施設ですが、元は「町営温泉」だったとのこと。町営温泉「クアパレスおがの」は、高齢化が進む中、福祉のシンボリック施設として平成 6 年に開設されました。平成 16 年に指定管理者による運営に移行しましたが、年間 3500 万円を超える赤字が発生する中、平成 20 年 12 月に休館に追い込まれました。

その後継として指定管理者になったのが、輸入オートバイを扱う現在の会社で、「オートバイによるまちおこし」とマッチした運営形態として、温泉機能を残したまま「モーターサイクル・ミュージアム」として再生しました。

この会社へ橋渡しをしたのも鶴飼さんのようで、まさに人とアイデアが生んだすばらしいマッチングです。

現在、ここを拠点に、いろんなバイクオーナーのライダーズミーティングや海外バイクメーカーの試乗会を行っており、休日には多くのライダーでにぎわっています。



【館内の展示場】バイクファン必見。欧州メーカーを中心に名車珍車がズラリ。古いベスパの新車(?)やドゥカティのフレームナンバー1番なんてのもあるそうです。

「次世代にオートバイを文化として伝えたい」、「浜松は小鹿野にはないすばらしい魅力をもっているのもったいない」。鶴飼さんはこのようにおっしゃっていました。

「バイクのふるさと」として重く受け止め、小鹿野町に負けないオートバイ文化を創造していく必要があると感じています。ぜひ、みなさんのアイデアやご意見をお聞かせください。

## 最近の市政トピックスから 「市職員の勤務時間短縮」

浜松市議会は、11/30 に市職員や特別職のボーナスを昨年比 0.4 ヶ月減額し、年間で 4.1 ヶ月とする議案など、人事処遇に関する 4 議案を議決しました。この中に「22 年 4 月から、日当たり労働時間を 15 分間短縮し、1 日 8 時間を 7 時間 45 分とする」というものがありました。

公務員の勤務時間短縮については、平成 20 年 8 月の人事院勧告で「日当たり 15 分間短縮」が示されましたが、浜松市人事委員会は、昨年の勧告では見送りました。今年の勧告でも触れていませんでしたが、検討の結果、今回の提案となったものです。

私たち「市民クラブ」は、労働時間短縮自体はやぶさかではないと考えます。

しかし民間企業で、労働時間短縮を行うには、賃金引き上げ同様、クリアすべき多くの課題があります。たとえば生産性向上のない勤務時間短縮は、残業増など人件費のアップにつながりかねませんので要注意です。会派としては議案に賛成した上で、課題について事前にしっかり対応を取るよう、市長に対し下記の要望を提出しました。

- ・ 時間外労働について全庁の縮減目標を設定し、導入までに周知徹底すること
- ・ 全庁目標を踏まえ、各課から時間外縮減についての目標と行動計画を出させること
- ・ チャレンジミーティングの導入など、全職場で目標管理の仕組みをつくること
- ・ 能力や成果に応じた人事処遇制度の適用範囲を拡大すること
- ・ これまで以上に市民サービスを向上させること



今日はイイお天気でしたね～。

ちょっと風が冷たかったですが、佐鳴湖では 300 人近い地域のみなさんが集まって「ふれあいウォーク」が開催されました。

入野地区社会福祉協議会が主催しているこのウォーキングには、例年、地域の高齢者のみなさんが多数参加していますが、今年に入野小学校 PTA の親子も 100 人近く参加しました。地域団体のコラボで、人と人がつながりあう、より良い地域をつくりたいものです。

ところで・・・、「佐鳴湖はキタナイ」と思っている人も多いかもしれませんが、自然豊かで気持ちのいいところですよ。

生活排水や農業・工業排水により、リンや窒素が多いことから「COD」という数値が高くなっているため、ワースト 3 位という汚名をかぶっていますが、何とか改善したいものです。

余談ですが、先日、千葉県我孫子市の手賀沼を視察しました。手賀沼はかつて佐鳴湖を大幅に上回るワースト1でしたが、さまざまな取り組みで水質が改善しています。

中でも「スゴいな」と思ったのは、市役所の中に「手賀沼課」という組織(課)があること。強いリーダーシップで、地方自治の世界では有名な、前市長の福嶋氏が、10 年ほど前に設置したそうです(氏は最近、国の「事業仕分け」の映像でよく登場しています)。

浜松も、「環境企画課・環境保全課・生活排水対策課」ではなく、「佐鳴湖課」とすれば、市民意識も高まるかもしれませんね・・・^^

ちょっとうれしいニュース(11/29 追記)

11/27 発表の 20 年度調査資料(環境省)で、佐鳴湖は「COD9.0 で、ワースト 4 位」になったとのこと。前年の 9.3 からわずかながら改善しており、目標の COD8 にはまだ届きませんが、浄化が進んでいるようです。

< 以下略 > この続きはブログをご覧ください。

日々の活動はブログで紹介しています。ご覧ください

「創ろう！元気な浜松【浜松市議会議員 田口 章】」

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/>

## 1 1 月の主な活動

- 01(日) 点字三偉人をたたえる集い
- 03(火) 入野老人クラブ連合会体育祭  
西区ふれあい広場
- 05(木) 厚生保健委員会  
入野地区自治連会議
- 06(金) エステック労組大会
- 07(土) 入野中火伏の丘楽市(フリマ)  
日本身体障害者水泳選手権大会(トビオ)  
教育キャンペーン街頭活動
- 08(日) 入野地区福祉まつり  
ベルソニカ労組大会
- 09(月) 地方分権講演会 in 静岡  
静岡市議会との意見交換会
- 10(火) 入野小学校学習発表会
- 11(水) いい日いい声掛け Day(あはつ運動)  
全員協議会  
連合浜松地協意見交換会
- 13(金) 市内福祉施設視察
- 14(土) 入野地区社協全員協議会
- 16(月) 千葉県我孫子市視察(手賀沼)
- 18(水) 本会議  
大都市制度調査特別委員会
- 19(木) 教組西区協議会
- 21(土) 入野地区社協ふれあいウォーキング  
スズキ労連政策討論集会
- 24(火) アスモ労組中央委員会
- 25(水) 埼玉県小鹿野町視察
- 26(木) 外国人集住都市会議 in 太田
- 30(月) 全員協議会・本会議  
市長要望書提出

## 1 2 月の主な予定

- 01(火) 本会議
- 02(水) 本会議
- 03(木) 厚生保健委員会
- 05(土) 国会議員と浜松市議会議員との意見交換会  
暴力追放市民大会
- 06(日) 自主防災訓練
- 07(月) どんぐり放課後児童会育成会
- 08(火) 森林・林業施策視察
- 09(水) 入野地区自治連会議
- 11(金) 全員協議会・本会議
- 12(土) みんなでつくる共生社会講演会
- 13(日) 行革審傍聴
- 14(月) スズキ協講演会
- 16(水)～17(木) 若手議員の会視察  
(和歌山市・大阪市)
- 19(土) 大平台フェスタ
- 25(金) 政務調査研究会

### 【編集後記】

今年ももう師走です。1 年経つのは早いものですね。インフルエンザなどお身体にお気をつけいただき、良いお年をお迎えください(章)